

日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
日本思想史概論	噂話から探る日本思想史	2	引野 亨輔	4	後期 金曜日 4講時	
日本思想史概論	日本思想史入門	2	片岡 龍	3	前期 火曜日 3講時	
日本思想史基礎講読	日本の木版本を読む	2	引野 亨輔	3	前期 金曜日 2講時	
日本思想史基礎講読	近代文語文による文章 を読む	2	片岡 龍	4	後期 火曜日 5講時	
日本思想史各論	柳宗悦論 I	2	片岡 龍	5	前期 月曜日 3講時	
日本思想史各論	柳宗悦論 II	2	片岡 龍	6	後期 月曜日 3講時	
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 I	2	引野 亨輔.片岡 龍	5	前期 水曜日 3講時	
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 II	2	引野 亨輔.片岡 龍	6	後期 水曜日 3講時	
日本思想史各論	出版文化史研究の成 果を読む	2	引野 亨輔	5	前期 火曜日 4講時	
日本思想史各論	肉食をめぐる日本思想 史	2	引野 亨輔	6	後期 火曜日 4講時	

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB45403, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：噂話から探る日本思想史
2. Course Title (授業題目)：History of Japanese Thought Searched from Rumors
3. 授業の目的と概要：思想史は、高名な知識人が書いた書物を分析する学問であると考えられがちである。しかし、前近代社会において、多くの知識は文字よりも話し言葉を通じて伝達されてきた。思想史研究にとって、このような知識伝達手段の変化に着目することは、大切な課題である。そこで、本授業では、日本史上における様々な噂話を取り上げ、口頭言語を通じて形成された日本思想の特質を明らかにする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The history of thought is often viewed as a study that analyzes books written by renowned intellectuals. However, in pre-modern societies, much knowledge has been transmitted through oral language rather than written. It is an important issue for the history of thought to focus on such changes in the means of knowledge transfer. This course deals with various rumors in Japanese history and clarifies the characteristics of Japanese thought formed through oral language.
5. 学修の到達目標：本授業の到達目標は、日本史上における知識伝達手段の変容について理解するとともに、多角的な視座から日本思想の特質を分析できるようになることである。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to understand the transformation of knowledge transfer in Japanese history and to be able to analyze the characteristics of Japanese thought from multiple perspectives.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回：ガイドダンスー「噂」が有する力ー
 - 第 2 回：中世の噂ー落書（ラクショ）に注目してー
 - 第 3 回：一揆高札と落書起請文
 - 第 4 回：未来の噂ー未来予言者としての聖徳太子ー
 - 第 5 回：出生をめぐる噂ー安倍晴明は狐の子か？ー
 - 第 6 回：ご落胤の噂ー平清盛は天皇の子か？ー
 - 第 7 回：英雄生存の噂ー源義経はチンギスハーンになったか？ー
 - 第 8 回：悪政の噂ー戦国大名の隠居と天人相聞説ー
 - 第 9 回：江戸の噂ーかわら版売りと奇談流行ー
 - 第 10 回：天狗小僧の噂ー平田篤胤の異界フィールドワーカー
 - 第 11 回：人の噂で飯を食う男ー江戸の情報屋・藤岡屋由蔵ー
 - 第 12 回：殿様上京の噂ー武一騒動からみる徳川幕藩体制ー
 - 第 13 回：土地均分の噂ー明治維新と民衆意識ー
 - 第 14 回：千里眼の噂ー近代科学と迷信のゆくえー
 - 第 15 回：まとめ期末試験
8. 成績評価方法：
 - 期末試験 60%、通常授業への参加度 20%、小レポート 20%
9. 教科書および参考書：
 - 教科書：必要に応じて資料を配付する
 - 参考書：『中世のうわさ』（酒井紀美、吉川弘文館）、『うわさの遠近法』（松山巖、青土社）
10. 授業時間外学習：各授業の終わりに、より深い理解を目指すための参考文献を紹介するので、適宜自主学習に努めること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB32301, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the History of Japanese Philosophy

3. 授業の目的と概要：日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといった関心を誘うテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（2～3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The lecture focuses on topics that attract interest, such as what is Japan, what is thought (thinking), and what is history, while taking up several topics in the history of Japanese thought.

5. 学修の到達目標：日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する基礎的知識と関心を高めることを期待する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal is to train students to think about topics such as what is Japan, what is thought, and what is history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

第1回：ガイダンス、丸山眞男と戦後日本1

第2回：「戦後」とは、丸山眞男と戦後日本2

第3回：丸山眞男「日本の思想」

第4回：加藤周一「雑種文化」

第5回：加藤周一、幽霊と語る

第6回：加藤周一『日本文学史序説』1

第7回：加藤周一『日本文学史序説』2

第8回：原爆体験の結晶化（丸山眞男）

第9回：戦後知識人の限界と課題

第10回：竹内好と沖縄、思想と運動

第11回：沖縄から「戦前」・「戦中」・「戦後」を見る（阿波根昌鴻1）

第12回：平和と生命（阿波根昌鴻2）

第13回：生活記録運動（鶴見和子1）

第14回：水俣病運動（鶴見和子2）

第15回：災禍と「生前退位」（平成天皇・皇太后）

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：資料配布

参考書：丸山 眞男（著）、杉田 敦（編集）『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）

10. 授業時間外学習：小レポート（2～3回）の準備を中心に、教科書・参考資料（授業時に配布）を学習する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB35202, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の木版本を読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Japanese Old Books Printed in Woodblock Prints

3. 授業の目的と概要：江戸時代に商業出版が成立すると、庶民層を対象とする通俗的な書物が数多く出版され、それらは社会に大きな影響を与えた。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に出版された幾つかの木版本を読んでもらい、基礎的な史料読解能力と伝統的な文化への理解力を身に付けてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：When commercial publishing was established in the Edo period, many popular books for the general public were published, which had a major impact on society. In this course, students will read some books printed in woodblock prints published during the Edo period, and through that experience, will acquire basic ability to read historical materials and understand Japanese traditional culture.

5. 学修の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に著された通俗的な書物を解読できるようになることと、木版本から江戸時代の文化的な特徴を理解できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal on this course is to be able to decipher popular books written in the Edo period and to understand the cultural characteristics of the Edo period from woodblock prints.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業ごとに江戸時代に出版された通俗的な木版本を取り上げ、受講生による読解と発表・討論を通して、史料読解能力の向上を図る。

第 1 回：ガイダンスー江戸時代と商業出版ー

第 2 回：女訓書を読む①ー『女実語教』と居初津奈ー

第 3 回：女訓書を読む②ー『女実語教』と江戸時代の諸思想ー

第 4 回：女訓書を読む③ー『女大学』と貝原益軒ー

第 5 回：女訓書を読む④ー『女大学』と江戸時代の現実ー

第 6 回：古典注釈書を読む①ー『徒然草諺解』と学問入門書ー

第 7 回：古典注釈書を読む②ー『徒然草参考』と仏教的世界観ー

第 8 回：古典注釈書を読む③ー『徒然草抄』と兼好法師ー

第 9 回：古典注釈書を読む④ー『経典余師』と四書ー

第 10 回：古典注釈書を読む⑤ー『経典余師』と近思録ー

第 11 回：パロディー文学を読む①ー『好色一代男』と井原西鶴ー

第 12 回：パロディー文学を読む②ー『仁勢物語』の笑いー

第 13 回：パロディー文学を読む③ー『尤之双紙』と江戸の教養ー

第 14 回：パロディー文学を読む④ー『修紫田舎源氏』の世界ー

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

1 人 1 回担当する発表 40%、授業中に実施する史料読解チェック 30%、小レポート 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：課題となる木版本のコピーを授業ごとに配付する。

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める

課題史料は、受講生全員が事前に読解しておく

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB42502, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近代文語文による文章を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading classical Japanese texts in the late 19th century
3. 授業の目的と概要：近代文語文による文章を精読し、基本的な史料読解能力を身に付ける。具体的には、仙台出身の思想家・新井奥邃（あらい おうすい、1846-1922）の語録を読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Read the classical Japanese texts in the late 19th century, and acquire basic reading comprehension skills. Specifically, read the verses of Arai Ousui (1846-1922), a philosopher from Sendai.
5. 学修の到達目標：日本思想史研究に用いる史料を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the knowledge and skills that are essential for accurately reading historical materials used in the study of Japanese intellectual history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) オリエンテーション
 - 2) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 3) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 4) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 5) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 6) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 7) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 8) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 9) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 10) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 11) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 12) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 13) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 14) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 15) 発表（現代語訳・語釈）と対話
8. 成績評価方法：

平常点（発表・対話への参加度）[70%] 出席点 [30%]
9. 教科書および参考書：

教科書～『おうすいポケット 奥邃語録抄』からセレクトしたプリントを配布。
参考書～授業時に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB51301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：柳宗悦論 I

2. Course Title (授業題目)：Study on Yanagi Muneyoshi I

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『柳宗悦全集』からセレクト）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『柳宗悦全集』).

5. 学修の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、イシュー特定など）を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：柳宗悦の人と思想

第3回：宗教的「無」

第4回：宗教的時間

第5回：存在の宗教的意味

第6回：神の愛と救ひとに就いて

第7回：思想家としてのブレーク

第8回：木喰上人発見の縁起

第9回：一遍上人

第10回：仏教と悪

第11回：妙好人の入信

第12回：妙好人の辞世の歌

第13回：神と仏

第14回：心偈

第15回：朝鮮人を想ふ

※第2～15回のテキストは、鶴見俊輔編『柳宗悦集』（近代日本思想体系 24、筑摩書房）からの例示
定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）：授業中に適宜資料を配布します。

参考書：水尾比呂志『評伝 柳宗悦』（ちくま学芸文庫）

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB61301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：柳宗悦論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Study on Yanagi Muneyoshi Ⅱ

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『柳宗悦全集』からセレクト）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『柳宗悦全集』) .

5. 学修の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、イシュー特定など）を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：柳宗悦の人と思想Ⅱ

第3回：朝鮮の友に贈る書

第4回：彼の朝鮮行

第5回：朝鮮の美術

第6回：失はれんとする一朝鮮建築のために

第7回：雑器の美

第8回：「工芸の道」緒言

第9回：工芸の美

第10回：工芸美論の先駆者に就いて

第11回：「茶」の病ひ

第12回：利休と私

第13回：日本の眼

第14回：蒐集に就いて

第15回：美の法門

※第2～15回のテキストは、鶴見俊輔編『柳宗悦集』（近代日本思想体系 24、筑摩書房）からの例示
定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）：授業中に適宜資料を配布します。

参考書：水尾比呂志『評伝 柳宗悦』（ちくま学芸文庫）

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LB53305, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目) :Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : As a preparatory step to preparing a graduation thesis, students will present their typical research and major historical materials on the topics they are interested in. (See Japanese text above for details.)

5. 学修の到達目標：卒業論文のテーマの決定

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Determining the thesis theme.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業の実施形態：対面授業（半分以上）とリアルタイム型オンライン授業の併用

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは1週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LB63306, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought 2

3. 授業の目的と概要：前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the report from the previous semester, each participant of the exercise will announce subsequent research results based on the reading of historical materials, and will discuss the contents. (See Japanese text above for details.)

5. 学修の到達目標：卒業論文作成の準備と研究内容の深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Preparation of graduation thesis and deepening of research contents

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは1週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB52401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：出版文化史研究の成果を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the Results of Research on the History of Publishing Culture
3. 授業の目的と概要：出版文化史研究の発展は、思想史の方法論にも大きな影響を与えた。書き手の独占物とみなされることが多かった著作物も、近年では、出版社によって意図的に改変され、読み手の「誤読」によって豊かな意味を生成していくものと捉えられている。本授業では、こうした研究動向を受講生たちにしっかりと把握させ、思想史の新たな研究方法を身に付けてもらう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The development of research on the history of publishing culture has had a great impact on the method of the history of thought. In recent years, literary works, which were often regarded as the exclusive property of the author, are now seen as being deliberately altered by the publisher and generating rich meaning through the “misreading” of the reader. In this course, students will be able to gain a firm grasp of these research trends and acquire new research methods for the history of thought.
5. 学修の到達目標：本授業の到達目標は、出版文化史研究の最新動向を把握し、思想史の新たな研究方法を身に付けることである。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to grasp the latest trends in research on the history of publishing culture and acquire new research methods for the history of thought.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業ごとに 1 本ずつ学術論文を取り上げ、受講生の問題提起発表と、その後の討論によって論文への理解を深める。

第 1 回：ガイダンスー出版文化史の最新動向ー
第 2 回：蔵書資料の可能性ー若尾政希氏の業績を読むー
第 3 回：江戸時代の知的読書ー横田冬彦の業績を読むー
第 4 回：江戸時代の女性読者ー青木美智男の業績を読むー
第 5 回：江戸時代の文字学び①ー梅村佳代の業績を読むー
第 6 回：江戸時代の文字学び②ー鈴木理恵の業績を読むー
第 7 回：江戸時代の文字学び③ー八鍬友広の業績を読むー
第 8 回：江戸時代の出版資本①ー藤實久美子の業績を読むー
第 9 回：江戸時代の出版資本②ー鈴木俊幸の業績を読むー
第 10 回：江戸時代の出版ネットワークー吉田麻子の業績を読むー
第 11 回：民俗と文字知ー小池淳一の業績を読むー
第 12 回：近代的出版文化への変容①ー和田敦彦の業績を読むー
第 13 回：近代的出版文化への変容②ー稲岡勝の業績を読むー
第 14 回：近代的出版文化への変容③ー浅岡邦雄の業績を読むー
第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：
担当回の発表 40%、通常授業への参加度 30%、課題レポート 30%
9. 教科書および参考書：
教科書：使用する論文については、授業中に適宜指示する。
参考書：『書籍文化とその基底』（若尾政希編、平凡社）
10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。
授業ごとに指定する課題論文については、受講生全員が事前に精読する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB62401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：肉食をめぐる日本思想史

2. Course Title (授業題目)：The History of Japanese Thought on Carnism

3. 授業の目的と概要：日本の歴史のなかで、諸思想家・宗教家は、動物の肉を食べない／もしくは食べるという行為について、様々な議論を行ってきた。前近代に行われた肉食をめぐる議論において興味深いのは、動物を食べる人間／人間に食べられる動物という二項対立的な図式が、まだ自明の事実となっていない点である。日本人は、人間が動物を食べるという一方的な関係性を、いつから自明のものとして認識し始めたのだろうか。また、そのような社会常識は、なぜ近年になって急速に揺らぎ始めたのだろうか。本授業では、古代から近代にかけて記された肉食をめぐる諸史料を取

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Throughout Japanese history, philosophers and religious leaders have debated whether or not to eat animal meat. What is interesting about pre-modern discussions on meat eating is that the dichotomy between human eating animals and animals eaten by human has not yet become a self-evident fact. When did the Japanese begin to accept the one-sided relationships of humans eating animals as self-evident? Also, why has such social common sense begun to shake rapidly in recent years? In this course, we will take up various historical materials concerning meat-eating written from ancient times to modern times. By having students read these historical materials carefully, they will acquire techniques for critical analysis of common-sense ways of thinking.

5. 学修の到達目標：本授業の到達目標は、肉食をめぐる諸史料を的確に読解し、多角的な分析を加えられるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to read and understand various historical materials concerning meat eating accurately and to be able to add multifaceted analysis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンスー肉を食べない／食べる思想ー

第2回：古代における肉食の実態ー『日本霊異記』を読むー

第3回：中世における肉食の実態ー『今昔物語集』を読むー

第4回：中世仏教における肉食論ー無住『沙石集』を読むー

第5回：中世神道における肉食論ー『神道集』を読むー

第6回：異国人から見た日本の肉食ールイス・フロイス『日欧文化比較』を読むー

第7回：中世の肉食と差別ー寛如『口伝鈔』を読むー

第8回：近世水土論のなかの肉食ー熊沢蕃山『集義外書』を読むー

第9回：近世養生論のなかの肉食ー貝原益軒『大和本草』を読むー

第10回：近世の米と肉ー安藤昌益『統道真伝』を読むー

第11回：近世僧侶の末法観と肉食論ー知空『肉食妻帯弁』を読むー

第12回：近世の文献考証主義と肉食論ー伴信友『獸穴塩湯考』を読むー

第13回：文明開化と肉食ー福沢諭吉『肉食之説』を読むー

第14回：近代化のなかの仏教と肉食ー鈴木大拙『米國通信』を読むー

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

担当回の発表 40%、通常授業への参加度 30%、課題レポート 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：使用する史料については、授業中に適宜指示する。

参考書：『歴史のなかの米と肉』（原田信男、平凡社）

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

授業ごとに指定する史料は、受講生全員が事前に精読する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：